

ほうせんぼう

宝泉坊のはなし

「宝泉坊トンネル」という名前のトンネルが蜂屋町から富加町にまたがり伊深町へ続く道にあります。

トンネルがある辺りには、中世から近世にかけて「宝泉坊」という名の修験者が住んでいました。

現在、トンネルの近くには、宝泉坊を祭った祠ほころがあります。トンネルの名前は、この修験者の名からきていると考えられます。

トンネルは、昭和37年に完成し、「宝仙坊トンネル」と名付けられ、平成16年には二代目のトンネルが完成し、現在のトンネルの名前は、「宝泉坊トンネル」となり、「仙」が「泉」と変わっています。

「ハウセンボウ」という音は同じでも、字はそのときどきで変化し、このことから地名やものの名前は、人から人へ口伝えされるものだったことが分かります。



▲「宝仙坊トンネル」工事(昭和37年)



▲トンネル近くにある祠と杉

「地名のはなし」は今回で終了させていただきます。
次回からは、「ていねいな暮らしのあったころ～佐野一彦の撮った伊深の里山～」を連載します。お楽しみに。